

<別紙> 本実証の詳細

本実証では、emol 株式会社が開発したアプリを使用します。児童と教員がそれぞれ簡単な操作を行うことで、教員が児童の状況を効率的に把握できるようになることが目的です。今回実証を行う津山市立東小学校では、小学 5・6 年生が、朝と帰りの時間に自身の端末を使い、今日の気持ちを選択するとともに、気になることを AI チャットボットと会話しします。



児童側の操作

- ・朝の会で、GIGA 端末上のアプリに検温報告などの健康状態の入力と、今の自分の気持ちを記録します。自分の気持ちの記録は選択肢の中から選ぶだけで AI が言語化するため、自らの状態を容易に把握することが可能です。
- ・帰りの会では、一日を振り返るために今日感じた良かったことを 3 つ入力します。AI がフォローアップの会話を行うため、一日の終わりを良い状態で迎えられるように支援することが可能です。

教員側の操作

- ・児童の入力状況を確認し、抜け漏れがある児童への入力を促します
- ・児童の気持ちの変化などの兆候があった場合にアプリが通知を行うため、教員は早い段階で児童をケアする機会を持つことが可能です。

これらの取り組みを通して、教員は児童が抱える問題をいち早く把握することが可能となるため、問題が大きくなる前に迅速に対応することができます。さらに、児童の入力データは、担任の教員以外にもアプリ上で閲覧可能となっているため、複数の教員で児童をケアすることができ、教員一人ひとりの負担軽減にもつながります。